

令和3年度

営業報告

貸借対照表

損益計算書



株式会社 平成大野屋

# 営業報告書

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月 31日

## I 営業の概況

### 1 営業の経過について

#### (1) 一般の概況

大野市のまちなか観光の入込客数は、関西や中京方面、近県からの観光客の割合が多く、主に「天空の城 越前大野城」を目的とした観光客が訪れていますが、令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大きく減少し、極めて厳しい状況にありました。

また、紅葉シーズンに向けたGoToトラベルキャンペーンの再開も期待されましたが変異株の登場によって緊急事態宣言やまん延防止措置の延長等により、同キャンペーンの再開は見送られ、観光客・売上げともに回復には至りませんでした。

上半期については、「緊急事態宣言・まん延防止措置」「福井県感染拡大特別警報発令」により、まちなか観光の入込客数は減少しました。また、「おおの城まつり」をはじめ地域のイベントも中止され、近県からのグループや家族連れなどの来客も減少し、当社の売上げは減少しました。

下半期は、全国的に新型コロナ感染者の減少傾向が見られ、新米や里芋などの農産物の販売に積極的に取り組む中、9月から11月には、客足が戻り「結楽座」や「はいから茶屋」の売上げは例年並みまで戻りました。

1月から3月は、昨年につき大雪や新型コロナウイルス感染症の影響により客足が激減し、売上げも減少しました。

これらの状況の中、全体として、昨年度以上に新型コロナウイルス感染症が事業に大きく影響した年度でありました。

販路開拓、特産品などの情報発信事業については、例年どおり、大野市の特産品カタログ「結ギフト」や通販用のDMを得意先などに送付し、大野市のPRと販路開拓を行いました。

出向宣伝事業については、例年出店している八尾河内音頭まつり、郡上市食の祭典、みなど区民まつり、大阪市での三県連携物産展、古河よかんべまつり、九頭竜紅葉まつり、新そばまつり、でっち羊かんまつりなどが新型コロナウイルス感染症の影響で中止となる中、11月にふくい農林水産まるごとフェスタ、3月には北陸新幹線開業2年前イベントが新たに開催され、当社も出店し物産販売を通じての情報発信を行いました。

「平蔵」においては、新型コロナウイルス感染症の影響で講演やコンサートなどが開催中止となり、例年2月から3月に開催される「春を彩る越前おおのひな祭り」の会場も道の駅荒島の郷に変更になりましたが、新たな試みとして、6月から11月の間、ストリートピアノ設置とポスター展示を行いました。

「二階蔵」では人数制限を行い、折り紙や木工の体験学習などを実施したほか、鉄道ジオラマや作品展示では、新型コロナウイルス感染症対策を十分にを行い、安心して見学していただけるように努めました。

藩主隠居所などの結ステーションエリアにおいては、大野市民が自由に出店できる多目的の販売スペースを活用し、平成大野屋がより多くの人々に利用される観光拠点となるよう努めました。

## (2) 部門別の状況

### <物販部門>

物販部門の総売り上高は、前年より4,838千円減の38,996千円となりました。テレビや新聞、旅行雑誌などでのPR、さらに「天空の城 越前大野城」の効果はあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、お城やまちなみ散策に訪れる観光客が春先から夏にかけて減少したことが大きな原因と考えています。

来客が最も期待できる紅葉時期は、新型コロナウイルス感染症の減少と天候が安定したことにより、9月から11月には、観光客も多く見られ売上也回復基調でありましたが、年明け1月の大雪や新型コロナウイルス感染症の影響により売上げが落ち込み、前年を下回る厳しい結果となりました。

個別内訳では、店頭販売が昨年より5,599千円減の29,347千円となりました。毎月のレジデータによると、4月から8月までは前年比マイナス、9月から11月は持ち直したものの、それ以降は持ち直すことができませんでした。

また、イベント出店を除くDMなどの店頭外販売は、ECサイトリニューアル、ウェブ広告の効果もあり、前年より814千円増の9,583千円となりました。「ふくい南青山291」、「食の國 福井館」、「割烹赤坂若狭」、「岩倉市のJA愛知北産直センター」での米や里芋などの越前おおの産特産品の販売は定着しています。

一方、イベント出店については、一昨年まで参加していた大阪府八尾市「八尾河内音頭まつり」や大阪市での「3県連携物産展」、岐阜県郡上市「食の祭典」、茨城県古河市「古河よかんべまつり」、市内の「九頭竜新緑まつり」、「九頭竜紅葉まつり」、「新そばまつり」、「でっち羊かんまつり」など、ほとんどのイベントが中止となり、昨年同様、66千円の売上げしか上げられませんでした。

### <飲食部門>

飲食部門の総売上高は、前年より1,011千円増の10,323千円となりました。新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、臨時休業をすることなく通年営業を行いました。毎月の売上高は、物販部門同様、4月から8月は前年比マイナス、9月から11月は持ち直したものの、年明け1月の大雪や新型コロナウイルス感染症の影響、「春を彩る越前おおのひな祭り」の会場変更もあり、冬期間の来客は減少し、年間を通じては、前年比でプラスとなりましたが、大きな回復とはなりませんでした。

旅行会社やグループからの団体申し込みは年間7件あり、少数ではありますが、中京や関西に加えて、県内の市町からもお越しいただくことができました。

喫茶部門においても、観光客の休憩場所、地元市民の憩いの場として利用いただけるよう努めました。

#### <受託部門>

大野市からの指定管理受託により、観光拠点施設「越前大野結ステーションエリア施設管理事業」と「販路拡大情報発信事業」を行いました。

##### (越前大野結ステーションエリア施設管理部門)

指定管理者として、まちなか観光拠点施設「平成大野屋」の「洋館」「平蔵」「二階蔵」と「結ステーション」の「結楽座」「藩主隠居所」「多目的広場兼駐車場」の施設運営管理を行いました。

「洋館」と「結楽座」では観光案内や飲食サービスの提供、特産品の販売を、「平蔵」では主に大野市民の文化芸術活動の展示や遠足客の休憩の場としての受入れを、「二階蔵」では「天空の城 越前大野城」の動画・写真の展示や鉄道ジオラマの展示、体験型観光の展開による観光客の受入れを、「藩主隠居所」では観光客の静かな休憩の場としての利用促進を行い、それぞれの施設の特性を活かした管理運営に当りました。

特に「二階蔵」では、体験型観光や展示企画の取組みとして、通常の手づくり体験のほかに、大野市の「おおのまるごと満喫お得キャンペーン」、「おおのまるごと満喫お得キャンペーン冬バージョン」に参画し、市内宿泊観光客やまちなか遠足で市内を訪れる小中学生などを対象としたジオラマ作り、カゴバッグ作り、自然工作、紙工作など特別体験講座を、人数限定の予約制とするなど感染拡大防止対策を図りながら開くとともに、冬季も土曜、日曜日に実施することにより利用拡大に努めました。

そのほか「天空の城 越前大野城」の写真展や大野の観光PR動画の上映、大野の四季を表した鉄道ジオラマの展示も行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響により「平蔵」での「春を彩る越前おおのひな祭り」の会場変更、市民グループによる利用の減少、小中学校のまちなか遠足の中止による遠足体験講座の減少などがありましたが、「二階蔵」の令和3年度の来館者数は9,247人となり、前年度の7,926人から約11.6%増となりました。

##### (販路拡大情報発信事業)

特産品の情報発信については、6月にはお中元用の夏の特産特集、9月には「越前おおのの旬」として新米と上庄里芋特集、11月にはお歳暮用の秋・冬の特産品観光情報特集の3種類のチラシを印刷し、主に都市圏の方を中心に、ダイレクトメールを送付しました。

また、市民向けには、4月に、結の故郷ロゴ入りPRポロシャツの販売チラシを10,275枚印刷し、新聞折り込みにより配布しました。そのほか、昨年度リニューアルしたホームページとECサイトは、ウィズコロナ時代に向けたインターネット活用のツールとして活用を強化し、ウェブ広告や送料無料キャンペーンの実施、販売商品を増やす等した結果、アクセス数は前年度比7倍以上の約23,000回、売上額は約2.5倍の2,300千円となりました。

## II 会社の概要 (令和4年3月31日現在)

### 1 主要な事業内容

- ◎ 大野市地場製品の販売・開拓
- ◎ 茶屋の営業
- ◎ 大野市からの受託事業 「越前大野結ステーションエリア施設管理事業」  
「販路拡大情報発信事業」

### 2 株式の状況

1	会社が発行する株式の総数	2,400株
1	発行済株式の総数	600株
1	株主数	132名
1	大株主	大野市 310株

### 3 従業員の状況

当期末現在 従業員 18名  
(社員11名、パート7名)

4 事業所 福井県大野市元町1番2号 (隣平成大野屋)

### 5 取締役の氏名

代表取締役	南 谷 憲 児
取 締 役	飯 田 俊市郎
取 締 役	此 下 美千雄
取 締 役	塗 茂 ひろ美
取 締 役	野 村 明 志
取 締 役	堂 下 昭 仁

### 6 監査役の氏名

監 査 役	林 幹 雄
監 査 役	竹 内 宗 義

## 貸借対照表

令和4年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産	27,177	I 流動負債	7,925
現金・預金	20,241	買掛金	1,840
売掛金	4,615	未払費用	4,262
棚卸資産	2,259	未払法人税等	206
仮払金	24	未払消費税等	1,292
その他の流動資産	38	その他の流動負債	325
		II 固定負債	0
II 固定資産	395	III 引当金	0
有形固定資産	288	負債の部合計	7,925
無形固定資産	77	資本の部	
投資その他の資産	30	I 資本金	30,000
		II 法定準備金	0
III 繰延資産	0	III 利益剰余金	△ 10,353
		繰越利益剰余金	△ 10,353
		資本の部合計	19,647
資産の部合計	27,572	負債・資本の部合計	27,572

(注記事項)

有形固定資産の減価償却累計額    2,133,420円

# 損益計算書

自 令和 3年4月 1日  
至 令和 4年3月31日

## 経常損益の部

(単位:円)

I 売上高	77,795,944
委託売上	28,493,648
物販売上	38,995,591
飲食売上	10,322,822
その他売上	△ 16,117
II 売上原価	32,695,334
売上総利益	45,100,610
III 販売費及び一般管理費	50,984,700
営業利益	△ 5,884,090
IV 営業外収益	2,498,920
V 営業外費用	10
経常利益	△ 3,385,180

## 特別損益の部

I 特別利益	0
II 特別損失	0
税引前当期利益	△ 3,385,180
法人税・住民税及び事業税	206,000
当期純利益	△ 3,591,180

## 株主資本等変動計算書

(単位 円)

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

	株主資本				純資産の部
	資本金	利益剰余金		株主資本	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金		
前期末残高	30,000,000	△ 6,761,351	△ 6,761,351	23,238,649	23,238,649
当期変動額					
当期純損益金		△ 3,591,180	△ 3,591,180	△ 3,591,180	△ 3,591,180
当期変動額合計		△ 3,591,180	△ 3,591,180	△ 3,591,180	△ 3,591,180
当期末残高	30,000,000	△ 10,352,531	△ 10,352,531	19,647,469	19,647,469



# 監 査 報 告 書

株式会社 平成大野屋

代表取締役 南 谷 憲 児 殿

株式会社平成大野屋の令和3年度の事業ならびに収支決算に関し、  
その内容および関係書類全般にわたり厳正に監査した結果、事業・  
収支とも適正に処理されていることを認めます。

令和4年5月6日

監査役

竹内 宗義 

監査役

林 幹雄 

令和3年度 比較損益計算書

勘定科目	
飲食売上	
物販売上	
事業委託売上	
施設管理売上	
その他売上	
売上高	
売上原価	
売上総利益	
粗利益率	
役員報酬	
給与手当	
雑給	
法定福利費	
福利厚生費	
運賃	
広告宣伝費	
販売促進費	
交際費	
貸倒損失	
旅費交通費	
通信用品費	
消耗品費	
事務用品費	
図書新聞費	
研修費	
水道光熱費	
保険料	
修繕費	
租税公課	
リース料	
支払手数料	
容器包装費	
減価償却費	
清掃費	
管理委託費	
諸会費	
顧問料	
雑費	
販売費及び一般管理費合計	
差引営業利益	
【営業外収入】	
受取利息	
受取配当金	
雑収入	
【営業外費用】	
雑損失	
差引経常利益	
【特別収入】	
【特別損失】	
固定資産除却損	
税引前当期利益	
法人税・住民税	
税引後当期利益	

(単位円・税別)

令和2年度実績	
9,312,629	
43,834,144	
3,212,460	
23,923,647	
△ 110,386	
80,172,494	
35,619,763	
44,552,731	
56%	
0	
26,644,053	
239,870	
3,633,094	
687,196	
50,105	
2,849,622	
2,970	
0	
1,852	
96,189	
563,513	
993,179	
299,743	
55,152	
5,456	
4,752,711	
291,280	
941,073	
89,695	
1,527,156	
677,111	
177,390	
384,696	
1,105,331	
1,411,300	
81,250	
945,200	
891,712	
49,397,899	
△ 4,845,168	
245	
1,200	
4,941,962	
31,127	
67,112	
0	
67,112	
206,000	
△ 138,888	

(単位円・税別)

令和3年度実績	
10,322,822	
38,995,591	
3,642,728	
24,850,920	
△ 16,117	
77,795,944	
32,695,334	
45,100,610	
58%	
0	
26,671,449	
367,498	
3,392,623	
652,789	
77,300	
2,915,409	
163,826	
0	
0	
42,763	
459,227	
1,321,671	
322,830	
57,420	
8,184	
5,214,531	
242,680	
1,554,364	
58,376	
1,593,480	
828,767	
121,510	
217,347	
1,168,650	
1,735,500	
93,250	
851,200	
852,056	
50,984,700	
△ 5,884,090	
246	
1,200	
2,497,474	
10	
△ 3,385,180	
0	
△ 3,385,180	
206,000	
△ 3,591,180	

## 令和4年度の取組み

### 1. 総合展望

2020年3月頃から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大、「コロナ禍」によって、多くの経済活動や市民生活が自粛を余儀なくされましたが、ワクチンの開発や接種が進む中で、徐々に経済活動を再開させつつ、感染への警戒は怠らないよう気をつけて生活する「自粛から自衛へ」という新たな段階に入ってきています。今年のゴールデンウィーク（GW）はコロナ禍の中で初めて行動制限のないGWとなり、全国各地も多くの観光客でにぎわいを見せました。感染拡大の不安はあるものの、経済活動の拡大も期待される状況になりつつあります。

一方、世界情勢の悪化による原油価格の高騰や生産低下による原材料・農産品の不足が顕著化し、食料品はじめ多くの商品製品・材料が値上げになり、経済活動や生活を圧迫してきており、今後注意が必要です。

福井県においても「コロナ禍」によって中止されてきた各地のイベント等が、今年度は実施が予定されるなど、徐々にではありますが経済活動が活発化してきています。

大野市では、昨年度「道の駅 越前おおの荒島の郷」がオープンし、年間来場者が当初予定を大幅に上回り新たな立ち寄り施設として活況を呈しています。

一方、まちなかへの入込は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、残念ながら減少傾向にあります。

来年秋頃には、中部縦貫自動車道が（仮称）和泉ICまで開通し、令和8年春には（仮称）油坂出入口までの県内全線が完成します。

令和6年春には、北陸新幹線が開業し、これら交通インフラ整備をビジネスチャンスととらえていかなければならないと考えます。

大野市当局においても、本年2月に従来の「越前おおのブランド戦略」をブラッシュアップした「越前おおの産業ブランド力向上戦略」を策定し、官民挙げて強力で事業を推進することとしています。

また、結ステーションの機能強化や今後の在り方について、大野市、大野商工会議所、一般社団法人大野市観光協会及び当社の4者で継続的に検討会を開催しています。

当社は、平成11年の設立から、本年6月で23年目となります。設立当初よりこれまで、地場産良品を全国に向けて販売すること、大野ファンと市民の交流の場を創出すること、地元と共に栄えることを目指す第三セクターの役割を果たすことを経営方針として運営を行い、その役割を果たしてまいりましたが、昨年度は収支が赤字となり、その解消に向けて、今年度は昨今の社会情勢の変化に対応し、①当社が担う役割について改めて見直すこと、②経営の体質改善を図ること、③将来を見据えた会社組織の在り方を模索することが必要不可欠であり、これらの課題の解決に取り組んでまいります。

### 2. まちなか観光への誘客

以下の取組みを行うことで、まちなか観光への誘客を推進します。

- ① 中部縦貫自動車道の県内全線開通や北陸新幹線福井・敦賀開業を見据えた各種施策や事業の展開

- ② 『市内事業者の「稼ぐ力」と企業価値』の向上を図り、地域経済の自立と好循環の実現を目指す「越前おおの産業ブランド力向上戦略」の実践
- ③ 結ステーションの機能強化と在り方の検討
- ④ 県や関係市町、市内関係団体、道の駅等との広域連携によるPR活動

### 3. 株式会社平成大野屋の事業及び在り方の検討

当社は、大野市から、まちなか観光の拠点となる結ステーション内の各施設や駐車場の管理運営の指定管理、物産特産品の販路拡大のための委託事業を受託しながら、①地場産良品を全国に向けて販売すること、②大野ファンと市民の交流の場を創出すること、③地元と共に栄えることを目指す第三セクターの役割を果たすことを経営方針に事業を進めてきました。

しかしながら、改善しなければならない課題も山積しています。

大野市当局は、まちなか観光を推進するために、結ステーションとともに関連する団体や第3セクター会社の在り方について検討を進めており、当社の在り方についても検討が必要となっています。

今年度は、株主の皆様方からの意見もいただきながら、当社の将来像、在り方について取りまとめを行い、次年度の総会に提案したいと考えています。

- ① 経営の改善
- ② 会社としての今後の在り方
- ③ その他

### 4. 結楽座・はいから茶屋の営業

経営の改善を図りながら、物販（結楽座）、飲食（はいから茶屋）の営業を行います。

- ① 飲食部門の赤字が大きいことから、その改善のため、メニューや原材料の見直しを行います。
- ② リニューアルしたECサイトを活用し、結楽座のインターネット販売を一層推進します。
- ③ 店舗販売において、大野の特産品や品揃えの充実を図っていきます。
- ④ 物販・飲食ともに毎月の売上目標を設定し、その結果を社員全員が共有できるような仕組みをつくりまします。

### 5. 大野市からの事業受託

#### 〈施設管理部門〉

昨年度と同様に、指定管理者として観光拠点施設の「洋館」「平蔵」「二階蔵」「結楽座」「藩主隠居所」「結ステーション」などの施設を総括して、「越前おおの結ステーションエリア施設」として引き続き指定管理を受託します。

新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めながら、大野市の観光発展に寄与できるよう、観光客に地域情報や観光情報の提供、各種企画展や結楽座ワゴン市、イベント開催など市民の活動拠点としての利用促進に努めていきます。

「二階蔵」では、市民の作品展や大野の観光地を模造した鉄道ジオラマ展示の更新に努めながら、特色ある手作り体験講座を設け、必要に応じて冬期間の土曜、日曜日にも体験講

座を開設し、集客を図ります。

また、施設内の整理整頓、駐車場や多目的広場の清掃、樹木や芝生、花壇の手入れを順次効率的に行い、水仙などの草花や花桃の植栽を進め、清潔で花のある魅力的なエリアを目指すとともに、新型コロナウイルス感染防止機器を設置し、適切に管理運営を遂行します。

#### 《販路拡大情報発信事業》

新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、一般社団法人大野市観光協会や一般財団法人越前おおの農林楽舎、株式会社昇竜、城下町東広場で活動する大野市シルバー人材センターとも協力し、「まちなか散策」や「天空の城 越前大野城」など、大野の魅力を活かした観光誘客PRを行う中で、販路拡大と情報発信に取り組みます。

また、昨年度オープンした「道の駅 越前おおの荒島の郷」と連携した取組みを検討します。

##### ① 特産品等の情報発信

「結楽座」のインターネット販売やダイレクトメール、フェイスブック・インスタグラム等のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）による特産品の紹介と販売促進、出向宣伝における観光・特産品のパンフレット配布、県外通販会員に向けた地域情報・観光情報の発信などを行います。

##### ② 特産品・農林産物販路開拓

近隣都市や都市圏を中心に、酒、味噌、醤油などの特産品、農林産物やそれらを活用した加工品などの情報発信や販売を積極的に行います。

##### ③ 越前おおの特産品と都市圏とのビジネスマッチング

都市圏でのイベント出店や出向宣伝で特産品を提供し、ビジネスマッチング活動を展開していきます。

##### ④ 県外アンテナショップ等を活用した越前おおの特産品の販売

愛知県岩倉市のJA愛知北産直センター岩倉店、福井県アンテナショップ「ふくい南青山291」、「食の國 福井館」での販売や市内外で開催されるイベントへの出店により、越前おおの特産品である美味しい米・里芋などをはじめ、清らかな地下水で作られた地酒、発酵食品などの宣伝販売に取り組みます。

##### ⑤ 県外観光客誘致促進

都市圏で開催される福井県観光商談会において、観光パンフレットや特産品、お酒等を提供するなど大野の魅力発信を行い、誘客を図ります。

#### 6. 新型コロナへの対策

「うつらない、うつさない」を基本として、感染拡大防止策を継続します。

##### ① 発熱者の施設への入場防止

##### ② 3つの「密」（密閉・密集・密接）と飛沫感染の防止

##### ③ 接触感染の防止

##### ④ 従業員に対しては、常にマスクの着用、手洗いの励行、朝礼における検温や感染防止の確認などを徹底

##### ⑤ 感染防止機器の設置

## 令和4年度数値目標

(単位:千円)税別

項 目		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和3年度目標		令和4年度目標
		平成31年4月～ 令和2年3月	令和2年4月～ 令和3年3月	令和3年4月～ 令和4年3月	令和3年4月～ 令和4年3月	目標達成率 (%)	令和4年4月～ 令和5年3月
売上高	委託部門(①+②)	27,569	27,135	28,493	28,493	100%	28,103
	①結ステーション エリア施設 管理事業	23,731	23,923	24,851	24,850		24,460
	②販路拡大情報 発信事業等	3,838	3,212	3,642	3,643		3,643
	物販部門	64,530	43,834	38,996	52,600	74%	55,000
	飲食部門	17,626	9,312	10,323	11,200	92%	15,000
	売上値引き戻り高	△ 112	△ 110	△ 16			
	その他部門	0	0	0			
	計	109,613	80,171	77,796	92,293	84%	98,103
売上原価	委託部門	0	0	0	0		0
	物販部門	47,084	31,860	28,909	37,800	76%	39,600
	飲食部門	6,517	3,759	3,787	4,100	92%	4,800
	計	53,601	35,619	32,696	41,900	78%	44,400
売上総利益	委託部門	27,569	27,135	28,493	28,493	100%	28,103
	物販部門	17,364	11,884	10,071	14,800	68%	15,400
	飲食部門	11,078	5,533	6,536	7,100	92%	10,200
	その他部門	0	0	0	0		0
	計	56,012	44,552	45,100	50,393	89%	53,703
粗利益率	委託部門	100.0%	100.0%	100.0%	100%	100%	100%
	物販部門	26.9%	27.1%	25.8%	28%	92%	28%
	飲食部門	62.9%	59.4%	63.3%	63%	100%	68%
	販売費・一般管理費	54,653	49,397	50,984	49,293	103%	52,103
	営業利益	1,359	△ 4,845	△ 5,884	1,100	0%	1,600
	営業外利益	582	4,943	2,499	500		1,200
	営業外損失	0	31	0	0		0
	経常利益	1,941	67	△ 3,385	1,600	0%	2,800
	特別利益	0	0	0	0		0
	特別損失	1	0	0	0		0
	税引前当期利益	1,940	67	△ 3,385	1,600	0%	2,800
	法人税・住民税及び事業税	655	206	206	600		800
	当期利益	1,285	△ 139	△ 3,591	1,000		2,000